柏木遺跡

――中山間総合整備事業　御柱の里地区　に伴う発掘調査報告書――

２００３年３月

茅野市教育委員会

KASHIWAGI SITE

柏木遺跡

――中山間総合整備事業　御柱の里地区　に伴う発掘調査報告書――

２００３年３月

茅野市教育委員会

序　　文

茅野市には国宝『土偶』が出土した棚畑遺跡をはじめ、国特別史跡尖石遺跡、国史跡上ノ段遺跡、国史跡駒形遺跡など多数の縄文時代遺跡がある縄文文化の宝庫であります。

ここに報告する柏木遺跡は、ほ場整備に伴う埋蔵文化財調査の結果発見された遺跡で、遺跡の内容などは未解明でありました。

平成12年度に、ほ場整備が計画されて柏木遺跡の一部が削平されるため、保護措置として発掘調査による記録保存を実施することになりました。

柏木遺跡がある金沢の大沢区には昭和28年（1953年）、藤森栄一氏、戸沢充則氏らにより縄文時代の住居址の一部が発掘されている芥沢遺跡が知られています。柏木遺跡は同遺跡から南南西に300m離れています。遺構では落し穴が見つかっていますが居住域の芥沢遺跡に対する生産域の遺跡と考えられることから、同遺跡の性格解明には欠くことができない遺跡であり、特に縄文人の生活域を考える上で、貴重な資料を集積することができました。

発掘された柏木遺跡の記録である本書が多くの人々に広く活用され、また郷土を知り学ぶことで、地域文化の向上に役立てば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の作成までご協力頂きました地元の皆様、並びに、発掘調査に参加されました多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成15年３月

茅野市教育委員会

教育長　両角　源美

例　　言

1．本書は、平成14年度中山間総合整備事業御柱の里地区（大沢区）に伴い、長野県諏訪地方事務所から茅野市教育委員会が委託を受け実施した長野県茅野市金沢「柏木遺跡」の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は茅野市教育委員会が平成14年度に実施している。調査費用は4,500千円（農政側負担4,072千円、文化財保護側負担428千円）で、調査の組織等の名簿は発掘調査組織として別載してある。

3．発掘調査は平成14年６月24日から９月24日まで実施、出土品の整理及び報告書の作成は引続き茅野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センターにおいて行った。

4．発掘調査から本書作成まで百瀬一郎が担当した。

5．本報告書に掲載の遺構の実測図は、土坑を1/60、遺物は1/3を原則として、黒曜石の石鏃は２/３で記してある。

6．調査区の基準点は国家座標基準点による。また遺構図面上に表されている北は座標北を示す。

7．本報告にかかわる出土品、諸記録は茅野市教育委員会尖石縄文考古館で収蔵、保管している。

目　　次

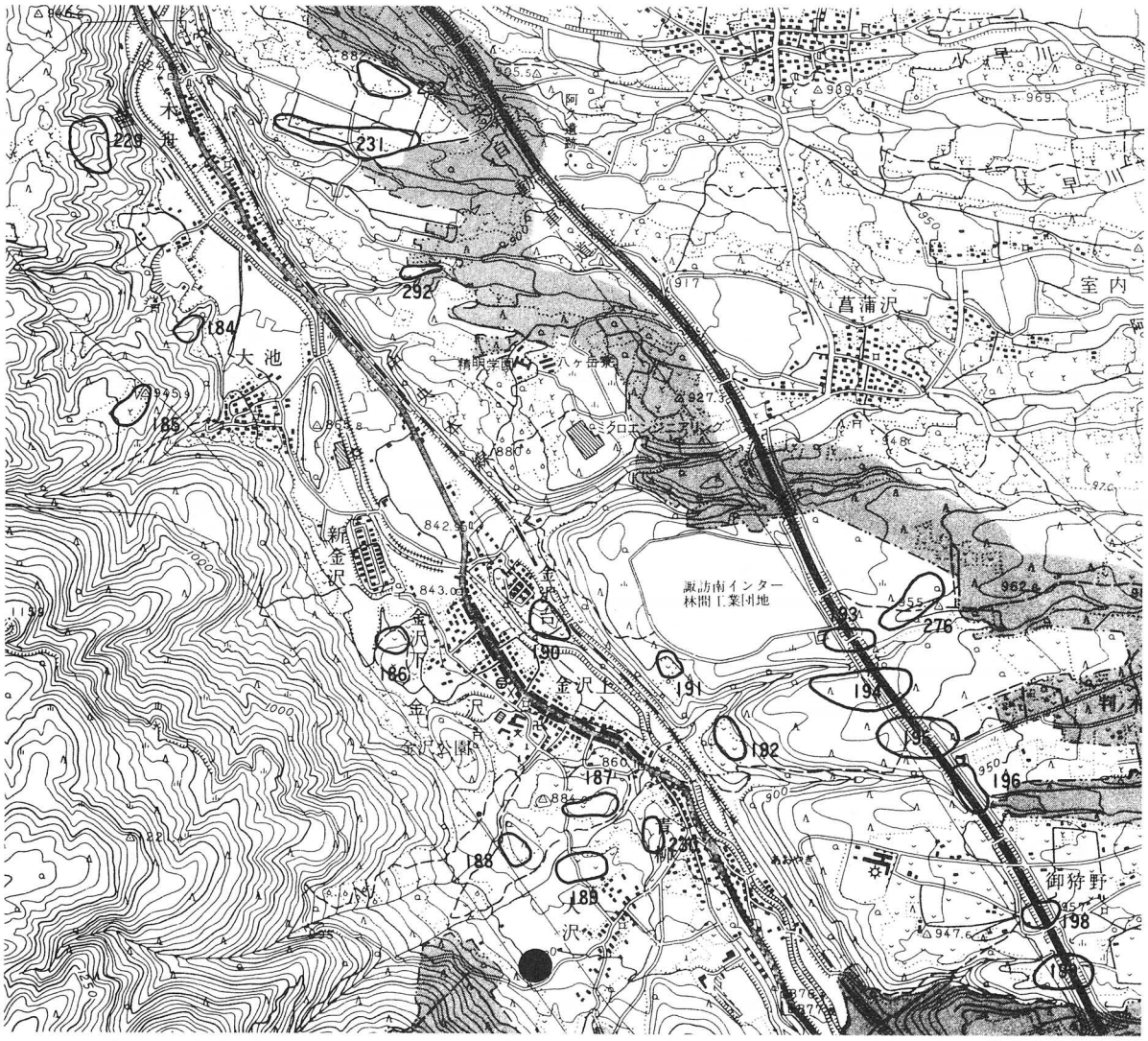
序文・例言・目次
第Ⅰ章　柏木遺跡の環境と調査史……1
　第１節　柏木遺跡の位置と環境……1
　　１　遺跡の位置と地理的環境……1
　　２　調査の歴史……2
第Ⅱ章　発掘調査の概要と諸事業の記録……3
　第１節　発掘調査の経過……3
　　１　発掘調査の経過……3
　　２　調査日誌抄……3
　　３　遺物整理と報告書作成の作業……3
　第２節　発掘調査の方法……3
　　１　発掘調査組織……3
　　２　発掘調査区の設定……4
　第３節　検出遺構の概要……4
　　１　土　　坑……4
　　２　そ の 他……4
第Ⅲ章　発掘された遺構と遺物……7
　第１節　柏木遺跡の層序……7
　第２節　発掘調査……7
第Ⅳ章　ま と め……12
　抄　　録

第Ⅰ章　柏木遺跡の環境と調査史

第１節　柏木遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置と地理的環境

柏木遺跡は、長野県茅野市金沢1766－１番地他の大沢区内の小字柏木に所在する。ＪＲ中央東線青柳駅の西南西700ｍに位置する。金沢地区は活断層の中央構造線と糸魚川～静岡構造線が交差する上にあるため、西に赤石山脈北端の入笠山系の急斜面が迫り、東は八ヶ岳の山麓が広がっている。山麓を浸食する宮川とその支流の河川によって形成された谷あいに主な集落があり、諏訪湖に向かって北西方向に緩やかに傾斜している。柏木遺跡は宮川支流の大沢川と中野沢川に挟まれた金沢山山裾の北側に傾斜する斜面にある。



184. ケツヨリ遺跡　185. 芝平遺跡　186. 御湯の山遺跡　187. 向坂遺跡　188. 天狗山遺跡
189. 芥沢遺跡　190. 金沢台遺跡　191. 裏の山遺跡　192. 中平遺跡　193. 上の原遺跡
194. 判ノ木山西遺跡　195. 判ノ木山東遺跡　196. 金山沢北遺跡　198. 御狩野遺跡　199. 頭殿沢遺跡
229. シラザレ城跡　230. はごや遺跡　231. 阿久尻遺跡　232. 下原山・茂佐久保遺跡　276. 下原山遺跡
292. 久保畑遺跡

第１図　柏木遺跡（●印）の位置と金沢地区の主な遺跡（１：25,000）

金沢は標高1600mに千軒平と呼ばれている湿原があり、一帯には戦国時代、武田信玄が金鶏金山から金鉱石を掘り出す為に多くの人夫を住まわせていた伝承がある。千軒平湿原は金川の水源となっており、宮川に合流して、諏訪湖に流れ込んでいる。地区内各所にある涌水は地下水位が高いこともあって下田圃の大清水を始めとして各所に湧き出している。金沢には、中世の主要道である鎌倉街道の道筋も大沢から天狗山の東、金沢近隣公園の西などに残っている。主要幹線道とは異なるが諏訪神社（現諏訪大社）上社御射山祭のため御射山社（原山様）に向かう参道が穂屋之木明神から祢宜坂を登り、社域に通じており御射山道と呼ばれているがこの道も古くからの道であろう。現在も長野県と首都圏を結ぶ交通の幹線である中央自動車道、国道20号線、ＪＲ中央東線等が通っている。江戸時代には甲州街道の宿駅が置かれ、大沢から金沢峠（松倉峠）を越える伊那高遠街道や山浦方面（八ヶ岳西南麓）との分岐点として商業の要所としても栄えた。

2　調査の歴史

金沢地区で最初に学術的な遺跡調査が行われたのは1920年（大正９年）信濃教育会諏訪部会の依嘱で郡史編纂資料収集のため諏訪を訪れた鳥井龍藏博士によるもので、木舟の芝平俗称ケツヨリで発掘調査を実施している。この時住居址と推測される竪穴を掘り、糸切り底の須恵器や弥生土器らしきものが見つかっている。出土した土器片の中には縄文時代早期の楕円押型文土器が含まれており、報告は1922年（大正11年）八幡一郎氏が行い、同氏は押型文土器研究の先駆者となって行く。当時の遺物は金沢小学校に保管されているが、校舎改築時に他の遺跡出土の遺物と混ざってしまったため分別できなくなっている。1924年（大正13年）に「諏訪史」第一巻が発行され、この竪穴の報告を行っている。また同書の諏訪郡先史時代遺物発見地名表の金澤村にはハゴヤ、芥澤、西畠、狐塚、原山、栃木澤、久保畑、茂左衛門窪、古屋敷、竹原上（ケツヨリ）、芝平、金澤峠、金澤山が、原始時代遺物発見地名表には矢ノ口、諏訪郡古墳調査表には稚子塚が記載されている。

1953年（昭和28年）柏木遺跡の北北東に位置する芥沢遺跡の小発掘が藤森榮一氏、戸沢充則氏らによって試みられ、道路沿いのごく狭い範囲を発掘しただけであったが、縄文時代早期末から前期初頭の住居址の一部を確認している。この時出土した遺物については、1983年（昭和58年）長崎元廣氏らにより再分類がなされ、隆帯系と沈線系の両者が存在していることが明確になっている。1975～1978年（昭和50～53年）には中央自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、金沢の八ヶ岳西南麓に位置する遺跡において空白となっていた部分の性格解明が進んだ。この中で注目されるものは判ノ木山西遺跡で出土した縄文時代早期の周辺地域で類例のない土器群である。これについては現在も分析が課題となっている。1990～1991年（平成２～３年）金沢工業団地造成に伴い発掘調査が実施された阿久尻遺跡からは方形柱穴列が19基検出され、縄文時代前期前葉の集落論に隣接する国史跡の阿久遺跡とともに多くの問題点を投げかけている。1992年（平成４年）金沢住宅団地（現在の旭ヶ丘）宅地造成に伴い芥沢遺跡と中野沢川を挟み対向する天狗山遺跡の発掘調査を実施したところ、断続的に縄文時代早期から平安時代末期までの生活址が確認された。遺構には縄文時代早期の押型文土器を伴う住居址や焼石炉のように定住を伺わせる跡があり、早期末前期の住居の遺物には東海系の土器が数形式にわたって搬入が認められ、弥生時代後期の複数の住居址からは、箱清水式、座光寺原式・中島式の土器が出土していることから両文化圏の接点であったことが伺える。平安時代末の住居址には同一場所で数回の建替えを認められるものがあり、住居址の軸方向と集落の軸方向から規則性を持って集落形成がなされた可能性が考えられる。また時代の特定はできなかったが生産域の遺構である落し穴が複列で検出していることから、時期によって居住域あるいは生産域として利用された遺跡であると思われる。

第Ⅱ章　発掘調査の概要と諸事業の記録

第１節　発掘調査の経過

１　発掘調査の経過

平成14年５月１日付「平成14年度中山間総合整備事業御柱の里地区埋蔵文化財発掘業務委託契約書」により長野県諏訪地方事務所長古坂和俊と発掘業務委託の契約を4,706,000円で締結する。

６月24日発掘調査開始。９月24日調査終了。長野県諏訪地方事務所土地改良課へ全面引渡しを行う。

当初想定に比べ遺物・遺構の減少に伴い、平成15年２月７日付で「変更委託契約書」により契約額を634,000円減額し4,072,000円とする。

２　調査日誌抄

発掘調査

６月24日　発掘調査の前に遺物の分布を調べるため踏査による表面採集を実施。表土の黒土はすべて北側に集積することを小林俊治中山間総合整備事業御柱里地区青柳・大沢換地区実行委員長に連絡し了解される。６月28日　重機による表土剥ぎを南側から開始する。

７月５日　発掘機材搬入と株切りを行う。７月８日　遺構の検出作業開始。７月11日　遺構検出面には礫が多く、前日の雨でぬかるみができたところもあり、検出作業は手間取る。７月15～17日　台風８号が梅雨前線を刺激し雨が強く降ったため発掘作業中止。７月23日　遺構の半割開始。７月24日ローム層下から黒色土層を検出し拡張する。７月25日　中ッ原縄文公園起工式のため作業中止。

８月12日　落し穴に着手。坑底中央に小穴有り。８月20日　盆休みの間に草が伸びたため草刈りを行う。８月27日　基準杭測量の杭打ち。

９月18日　ラジコンヘリコプターによる航空測量。９月20日　発掘機材の撤収。９月24日　諏訪地方事務所土地改良課に引き渡す。

３　遺物整理と報告書作成の作業

平成15年１月６日　柏木遺跡の本格的な整理作業開始。１月９日　発掘調査報告書の原稿作成開始。

３月18日『柏木遺跡』―「中山間総合整備事業　御柱の里地区」に伴う発掘調査報告書―発行。

第２節　発掘調査の方法

１　発掘調査組織

本調査は茅野市教育委員会の直轄事業として実施し、その組織は次ぎのとおりである。

調査主体者　　両角　源美　（茅野市教育委員会教育長）

事　務　局　　伊藤　修平　（茅野市教育委員会教育部長）

文化財課

小平　廣泰　（文化財課長）　　守矢　昌文　（文化財係長）　　小池　岳史

百瀬　一郎　　小林　健治　　柳川　英司　　大月三千代

調査担当者　　百瀬　一郎

調査補助員

小松とよみ　　原　敏江　　矢崎つな子

発掘調査・整理作業参加者

鵜飼　澄雄　　大宮　文　　遠藤　佳子　　小海　栄子

篠原リカ子　　茅野　益嗣　　野澤みさ子　　原　徳治

北條　嘉久男　　増木　三訓　　宮坂ひとみ　　森　浩子

柳沢　宏

基準杭測量委託　株式会社嶺水茅野支店　支店長　花井　陽二（茅野市塚原二丁目13番39号）

航空測量委託　新日本航業　株式会社　代表取締役　工藤　八一（小諸市甲1176－4番地）

発掘調査期間中、地元金沢の方々には埋蔵文化財に対して深いご理解とご協力を賜り、また中山間総合整備事業御柱の里地区青柳・大沢換地区実行委員会の皆様、及び大沢区民の皆様からは貴重で有益なご指導、助言を賜りました。ここに深甚なる謝意を表します。

2　発掘調査区の設定

柏木遺跡は新発見の遺跡で遺跡内容は不明であった。茅野市教育委員会では調査区設定に当たり事前の表面採集による調査の成果を基にグリッドの設定を行い、座標系第Ⅷ系X＝－7050.000、Y＝－27770.000を基準軸として、10m四方のグリッドを配置し、東西軸をアルファベット、南北軸を数字で分割し、アルファベットとアラビア数字の組合せで、例えばA－1と表記してある。

第3節　検出遺構の概要

1　土　　坑

本遺跡の土坑で特色あるのは落し穴を2基検出したことである。時期の特定はできなかったが、立地、土坑規模、長径方向がほぼ同一になることなどから、短期間に併存していた可能性は高く、狩り場として、周辺遺跡と一つの生活圏が構成されていたことを伺わせる。

2　そ の 他

調査区内を北東－南西に抜けている不規則な溝については、断層に伴う地割れである可能性もあったが検出部は浅く、遺構との切り合いを見ても断層によるとは確認できなかったので人工的な溝とする。

第２図　遺構分布図（1/200）

第Ⅲ章　発掘された遺構と遺物

第１節　柏木遺跡の層序

柏木遺跡は、大沢川によって形成された扇状地上に位置する。発掘調査以前の地形は蒲鉾形の稜を持ちながら北側に緩やかに傾斜し広がり、調査区から下は段々の水田になっている。遺跡の土層は扇状地の稜頂部が礫混じりのローム層が剥き出しになっていたため西向き斜面（第３図５号土坑上面）で東西方向に設定した。

第２節　発掘調査

遺 構 他

遺跡の調査面積は、事業対象のうち900㎡で、遺構が続いている可能性がある南側は対象地区外となるため調査は実施していない。遺構の中で、人為的に土中へ穿たれている穴の底面の締まっているものを便宜的に土坑として取り扱っている。土坑番号は検出順に15番まで付けてある。ロームマウンドは整理作業時に番号を付けている。土坑15基について記しておく。

１．第１号土坑（第３図、図版３－①②）

Ｄ・Ｅ－３グリッドの発掘調査区の東側、北西に向かい緩やかに傾斜する尾根肩に位置する。上面は耕作により削られている。検出面は歪んだ楕円形で長径192cm、短径75cm、中段に向かって薬研状に窄まり中段からは長径182cm、短径33cmの狭長な隅丸長方形を呈し底面に向かって若干狭まる筒状を成す。壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はＮ－67°－Ｅ、長径178cm、短径17cm、検出面からの深さは101cm。底面のピットは１基で坑底からの深さは31cmでピット内には杭か逆茂木を固定するように礫が詰まっていた。遺物の出土は無かった。形状から落し穴であろう。

２．第２号土坑（第３図、図版３－③）

第１号土坑南側のＤ・Ｅ－３グリッドに位置する。第１号土坑との間に浅く細い溝が南西方向に曲折しながら延びている。検出面は歪んだ円形で長径83cm、短径77cm。底面に向かって若干狭まり、壁面は締まっている。坑底は歪んだ隅丸方形を呈し、軸方向はＮ－42°－Ｅ、長径57cm、短径47cm、検出面からの深さは19cm、遺物の出土は無かった。

３．第３号土坑（第３図、図版４－①）

Ｄ－２・３グリッドの第３号土坑西側溝内に位置する。検出面は歪んだ円形で長径108cm、短径102cm、壁面は締まっている。坑底も歪んだ円形を呈し、軸方向はＮ－４°－Ｗ、長径63cm、短径58cm。検出面からの深さは27cmである。遺物の出土は無かった。

４．第４号土坑（第３図、図版４－②）

Ｄ－２グリッドの第３号土坑南西側溝内に位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径133cm、短径97cm、壁面は締まっている。坑底に向かって僅かな段が付く薬研状呈す。軸方向はＮ－24°－Ｗ、長径33cm、短径15cm。検出面からの深さは48cmである。遺物の出土は無かった。

5．第5号土坑（第3図）

D－2グリッドの第4号土坑南西側の浅い谷の中に位置する。断面図の第Ⅰ層は耕作土で基本層所の観察をここで行っている。検出面は歪んだ楕円形で長径107cm、短径67cm、壁面は締まっている。軸方向はN－16°－W、長径78cm、短径55cm。検出面からの深さは12cmである。遺物の出土は無かった。

6．第6号土坑（第3図、図版7－①）

C－3グリッドの第1号土坑西側に位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径115cm、短径87cm。壁面が締まっていることから土坑として扱ったが、坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN－20°－W、長径90cm、短径61cm。検出面からの深さは51cmである。遺物の出土は無かった。

7．第7号土坑（第3図）

C－3グリッドの第6号土坑西側で南側の第8号土坑を切って位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径159cm、短径106cm。底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は締まっている。坑底は歪んだ鶏卵を呈し、凹凸がある。軸方向はN－31°－W、長径124cm、短径77cm。検出面からの深さは33cmである。遺物の出土は無かった。

8．第8号土坑（第3図、図版4－③）

第7号土坑の南側に切られ、C－3グリッドに位置する。検出面は歪んだ検出面は歪んだ隅丸二等辺三角形で長径97cm、短径84cm、底面に向かって若干狭まる皿状を成す。壁面、底面ともにやや軟弱で、坑底は歪んだ鶏卵形を呈し、軸方向はN－34°－W、長径64cm、短径43cm。検出面からの深さは24cmである。遺物の出土は無かった。

9．第9号土坑（第3図、図版6－③）

第8号土坑の北側、C－3グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径75cm、短径65cm、鍋状を呈し、軸方向はN－15°－E。壁面は締まっている。坑底は長径48cm、短径42cmのゆがんだ円形で、検出面からの深さは25cmである。遺物の出土は無かった。

10．第10号土坑（第3図、図版5－①）

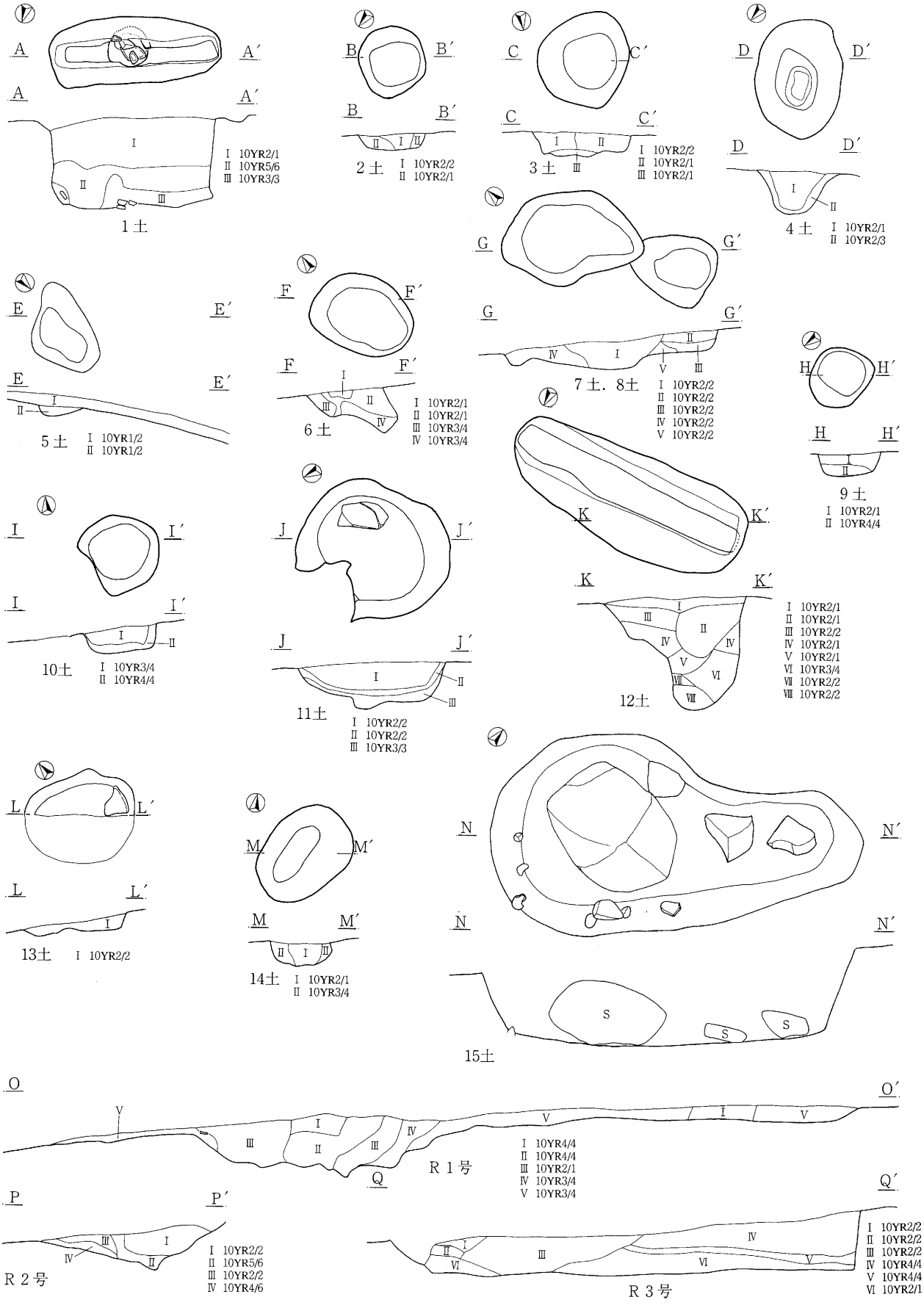
第8号土坑の西側、C－3グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径91cm、短径90cm、南西側は谷地形により切られている。鍋状で、坑底は歪んだ円形を呈し、軸方向はN－75°－E、長径68cm、短径60cm。検出面からの深さは28cmである。遺物の出土は無かった。

11．第11号土坑（第3図、図版5－②③）

第6号土坑の北側、D－3・4グリッドに位置する。上面と北側は耕作により削られている。検出面は歪んだ円形で長径172cm、短径153cm、底面に向かって鍋底状を成す。壁面と底面はロームと石灰を混ぜて形成されており、堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN－77°－E、長径128cm、短径100cm、検出面からの深さは51cmである。野溜の跡である。遺物の出土は無かった。

12．第12号土坑（第3図、図版6－①②）

D・E－2・3グリッド第1号土坑の南側に2m離れ、ほぼ同軸方向で並んで位置する。遺構の半分は調査区外であったが航空測量の前日に崩落してしまったため完掘することになった土坑である。検出面は歪んだ楕円形で長径279cm、短径207cm、中段に向かって薬研状に窄まり中段からは長径268cm、短径53cmの狭長で短辺の一方が半円形、もう一方がコの字形を呈し、底面に向かって若干狭まる筒状を成す。壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN－87°－W、長径216cm、短径28cm、検出面からの深さは127cm。底面にピットは無い。遺物の出土は無かった。形状から落し穴であろう。



第3図　1～15号土坑、ローマウンド1号・3号、流路と土石流痕（1/60）

13. 第13号土坑（第３図、図版７－②）

第５号土坑西側のＢ・Ｃ－２グリッドに位置する。調査区西外側の堰に最も近く、平面プランを確認し断面を計測するため半割したところ底面が軟弱であったため掘り抜いてしまった土坑である。検出面は歪んだ円形で長径122cm、短径104cm。皿状を呈する。坑底の残存部は半円形を呈する。検出面からの深さは19cm、遺物の出土は無かった。

14. 第14号土坑（第３図）

第１号土坑北西側Ｄ－３グリッドの第１号ロームマウンドの南に位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径118cm、短径87cm。底面に向かって薬研状に若干狭まり、壁面は締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はＮ－25°－Ｅ、長径74cm、短径25cm、検出面からの深さは28cmである。遺物の出土は無かった。

15. 第15号土坑（第３図、図版７－③）

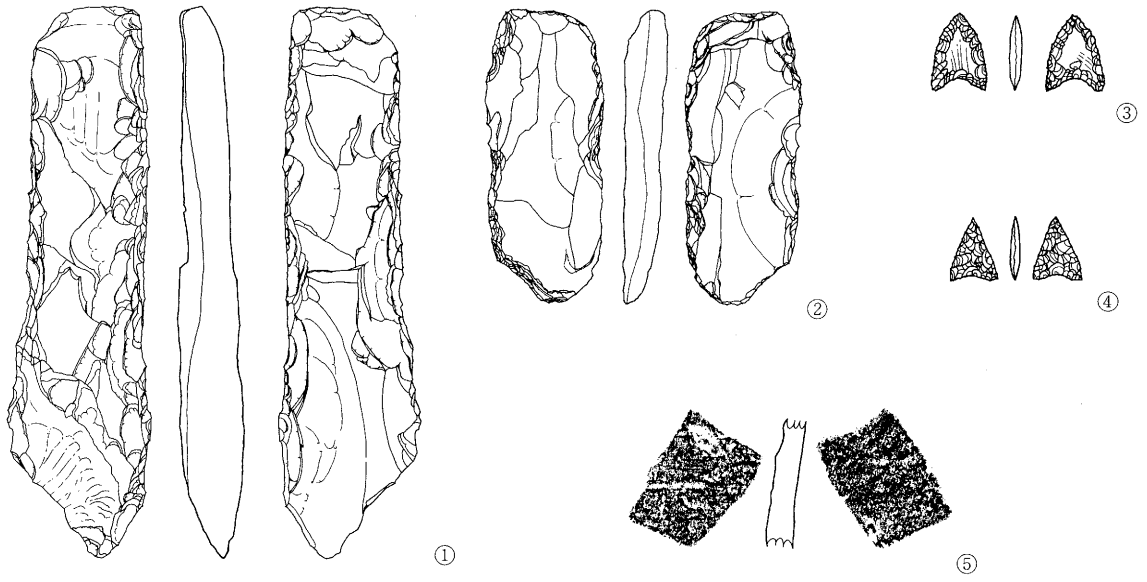
第13号土坑南側のＣ－１・２グリッドに位置する。検出面は縦れの浅い瓢形で長径414cm、短径221cm。底面に向かって若干狭まり、壁面は締まっている。坑底は歪んだ隅丸方形を呈し、軸方向はＮ－55°－Ｅ、長径346cm、短径165cm、検出面からの深さは117cmである。遺物の出土は無かった。

土石流痕（図版８）

最上層は山崩れによる崩落土が再堆積したもので色調は黄褐色を呈す。粒子は細かく、締まりがあり、粘性は強い。ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。焼土、炭化物ともにない。礫は場所により多量に含むか全く含まないか区々である。２層目は旧表土で黒褐色を呈す。西側は流路の河床で暗褐色を呈し、細かい砂礫を多量に含む。

遺　　物（第４図、図版９－①）

遺物は遺構内からの出土は無かったが表土内と攪乱層内から黒耀石の石鏃、打製石斧や内耳土器が少量出土している。遺物の出土は東側からで西側からの出土はなかった。



第４図　柏木遺跡出土遺物（①②⑤ 1/3・③④ 2/3）

打製石斧

２点出土している。１点は薄緑色を呈し、長さ22.3cm、幅5.8cm、厚さ2.5cmである。刃部は調整前の剥離が行われたままで、断面は鋭角を成している。側面は粗く剥離後、丁寧に調整され、部分的に潰し痕が残る。

もう１点は薄青色を呈し、長さ11.8cm、幅4.6cm、厚さ1.8cmである。刃部、側面共によく調整されている。

石　鏃

黒曜石製で２点出土している。１点は途中で段が付くように湾曲する刃部と緩やかに凹む抉りを持ち表裏共に主剥離痕が残り、周辺は細かく調整されている。長さ1.6cm、幅1.1cm、厚さ0.2cmである。もう１点は二等辺三角形状で抉りは浅い。長さ1.3cm、幅1.0cm、厚さ0.2cmである。

縄文時代の遺物は他に耕作によるローリングを受けた黒曜石片５点が出土している。

内耳土器

胴部の破片が１点出土している。表はローリングを受けているが裏面には水引き痕が残る。胎土は細かく少量の砂を含む。

第Ⅳ章　ま　と　め

茅野市の南西、金沢地区大沢にある柏木遺跡は、ほ場整備事業に伴う事前の踏査で発見された遺跡である。発掘調査面積が遺跡縁辺の900㎡と狭い上に、遺構密度も薄く、遺構は落し穴２基を含む土坑が10数基見つかっただけである。遺物は打製石斧２点、黒耀石の石鏃２点、中世の内耳土器片１点、黒曜石片数点で遺物量も少ない。また、土石流痕の層序も検出している。大沢川の扇状地に立地する柏木遺跡は、金沢山の山裾に当たるため山際の傾斜変換点の所々から水が滲み出ている。冬には諏訪湖から冷たく強い北西風が、宮川を遡り扇状地を吹き上げて来る。その厳しい環境状況から現代より温暖であった縄文時代においても遺跡一帯は居住域とすれば住み難かったと思われる。柏木遺跡の性格解明には希薄な遺構密度と少ない遺物に加え、調査面積も少なかったことから立地、環境と周辺の遺跡との関係が重要となる。大沢川改修以前は調査区から北に300m離れた尾根上に大清水が湧出しており、隣接して縄文時代の集落遺跡である芥沢遺跡が広がっている。芥沢遺跡は中野沢川で北西側の独立丘である天狗山と相対していたため、旭ヶ丘団地が造成されるまでは、北西からの寒風も直接当たることがなく、南東向きの斜面に位置する天狗山遺跡とともに冬でも比較的温暖な環境にあり、現在もイモリが多数生息している。近年、柏木遺跡一帯の山林に隣接している耕作地は鹿による食害や猪による転稲が著しく、ネットを張り侵入を防いでいる田畑が多く、かつては現在以上に鹿、猪が生息し、その他の禽獣を始めとする山の幸も豊かであったと思われる。

柏木遺跡で特に注目しておきたい遺構は落し穴である。該当するのは第１号土坑、第12号土坑で形態は、平面形が楕円で、中段にかけて擂鉢形に窄まり、中段からは平面が楕円形か隅丸方形で筒形を成し底面に続いている。底面の中央付近には１穴がある。検出した土坑で落し穴と考えることができるのは２基だけであるが配列状況の立地から、調査区外の南側に続いている可能性がある。柏木性格分析には、調査区の北側にある天狗山遺跡と芥沢遺跡との関係が重要となる。天狗山遺跡については発掘調査の結果、居住域と生産域の遺構が見つかっており、各生活域には時間差が認められる。芥沢遺跡も平成14年度に実施した試掘調査の結果、住居址と落し穴と思われる土坑を検出している。柏木遺跡は落し穴という狩猟設備を持つ生産域の狩り場遺跡である。天狗山遺跡、芥沢遺跡が居住域として機能していた時期には柏木遺跡も、極めて深い関係にあり同一生活域内で狩猟場的な領域分担を担っていた生産域の遺跡であると考えるのが妥当であろう。

遺物に１点だけであるが内耳土器の破片が出土している。中世の遺物である内耳土器の発見は、大沢から国有林の金沢山を金沢字金山地籍の標高1300～1400mまで約８㎞登った芝平峠手前にある金鶏金山の登り口に柏木遺跡が位置している事から興味深い。金鶏金山は武田信玄の金山と伝えられており、青柳金山、金沢金山とも呼ばれており、千軒平湿原の周辺には採掘関連施設と伝承が残っている場所があり、吊し掘り（露天掘り）をした跡と伝えられている穴の数は、現在でも200基以上確認することができる。

最後にほ場整備事業により一部湮滅してしまった柏木遺跡は、集落から離れてはいるが市民の関心も高く、今回の発掘調査に当たっては地元の関係各位からご高配、ご協力を得ることができ、その中には参考になることも多々あり感謝する次第である。しかし諸々の事情により実質的な整理作業は短期間で行わなければならず分析、考察面では不十分な点があり、特に周辺遺跡との関係も含めて多くの課題を残す結果となった。柏木遺跡の全容解明に向けては遺跡の範囲把握や、上記の課題も含め周辺遺跡の関係等で未だ不明な事もあり、今後稿を改める予定である。

引用参考文献

鳥居龍藏　1924『諏訪史』第一巻　信濃教育会諏訪部会

信濃史料刊行會　1956『信濃史料第１巻上』

長野県教育委員会　1981『昭和51･52年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―茅野市･原村(その３)』

長野県教育委員会　1982『昭和51・52年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―原村（その５)』

長野県教育委員会　1980『八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書　昭和54年度』

茅野市教育委員会　1986『茅野市史　上巻　原始・古代』

長野県史刊行会　1988『長野県史　考古資料編　全一巻㈣　遺構・遺物』

守矢昌文　1989「長野県における縄文時代早期末から前期初頭の土器群について」『会報３』諏訪考古学研究会

茅野市教育委員会　1990『芥沢遺跡』

茅野市教育委員会　1991『茅野市遺跡台帳』

金沢村史刊行会　1992『信州金沢の歴史』

茅野市教育委員会　1993『天狗山遺跡』

茅野市教育委員会　1995『上の平遺跡』

茅野市教育委員会　1996『梵天原遺跡』

茅野市教育委員会　2001『下尾根遺跡』

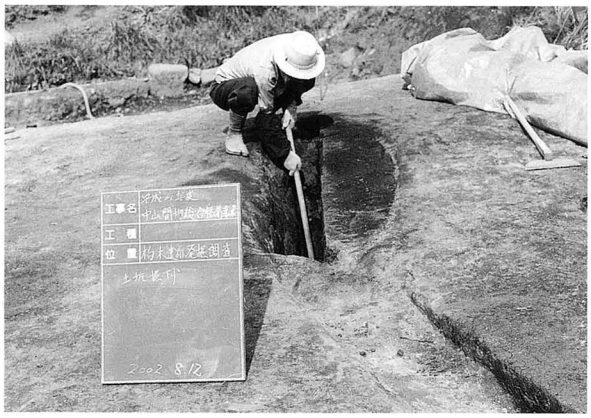
図　　版

図版1

調査区全景（北西側から）

①表土剥ぎ風景

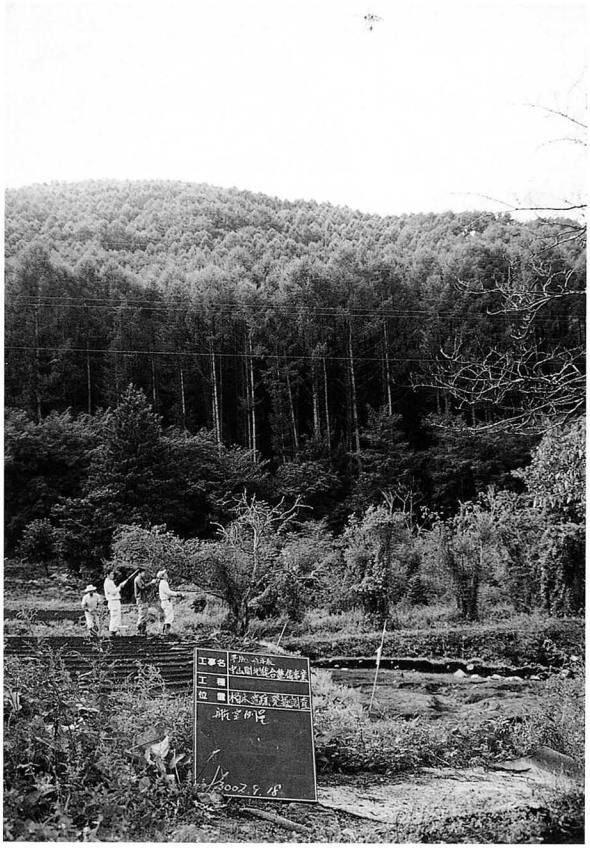
②遺構検出作業



③土坑半割り作業

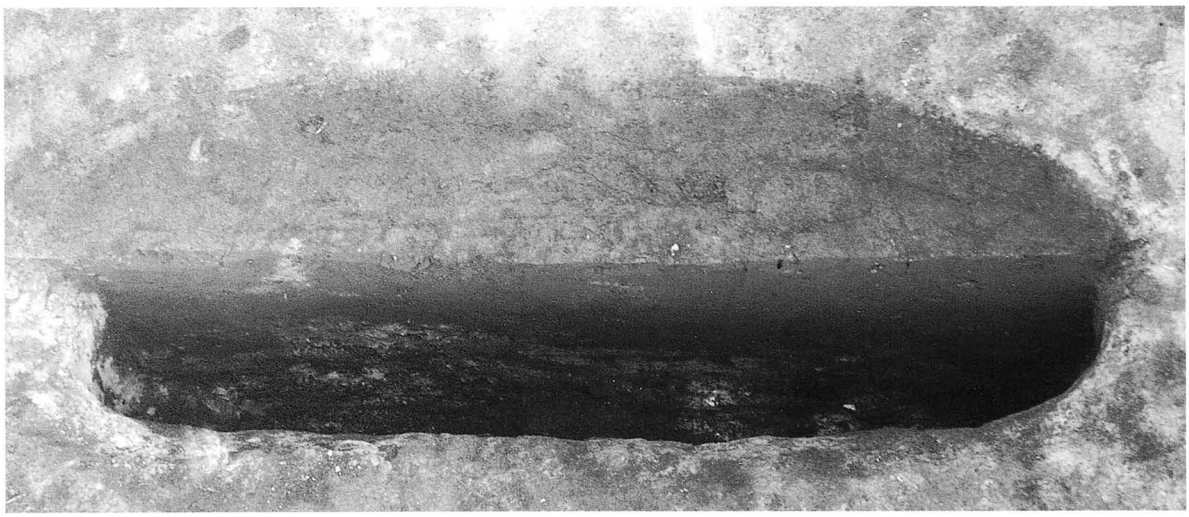
④実測作業

⑤基準坑測量作業



⑥航空測量撮影

図版3

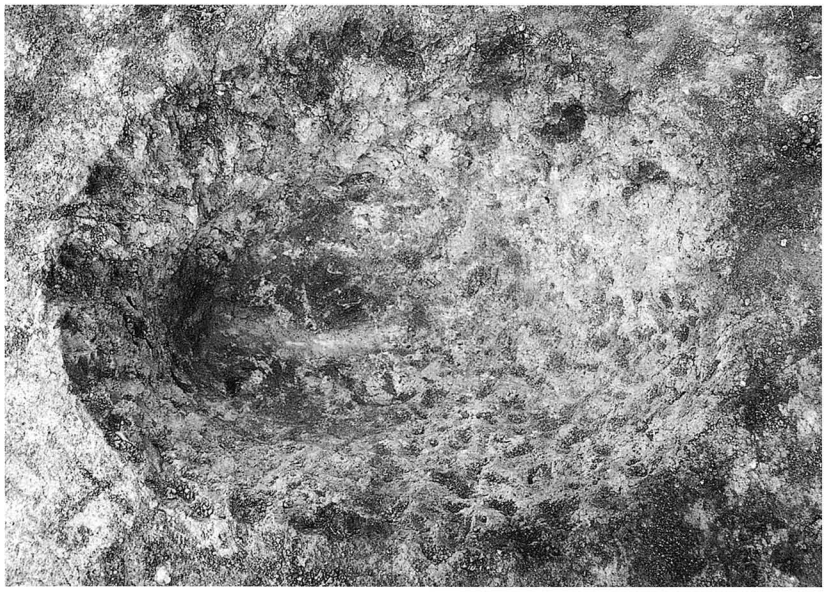


①第１号土坑セクション

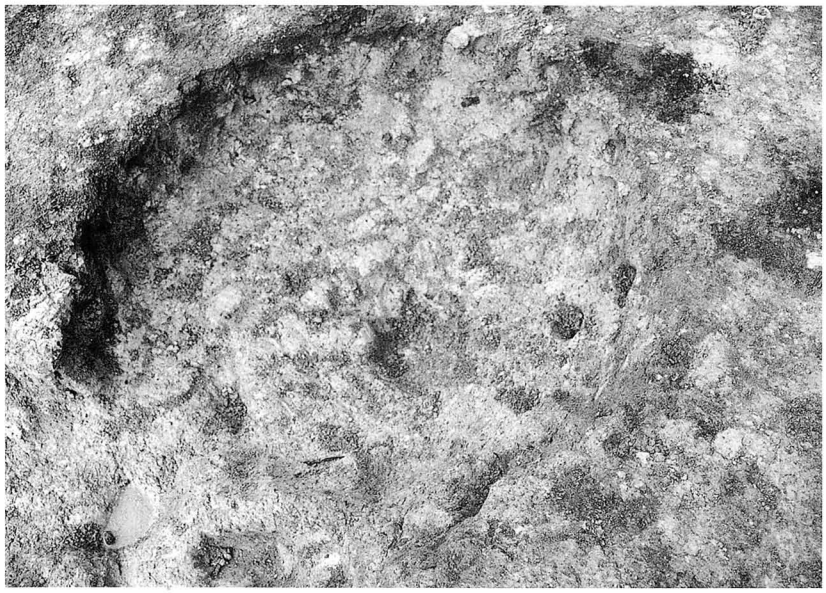
②第１号土坑

③第２号土坑

①第3号土坑

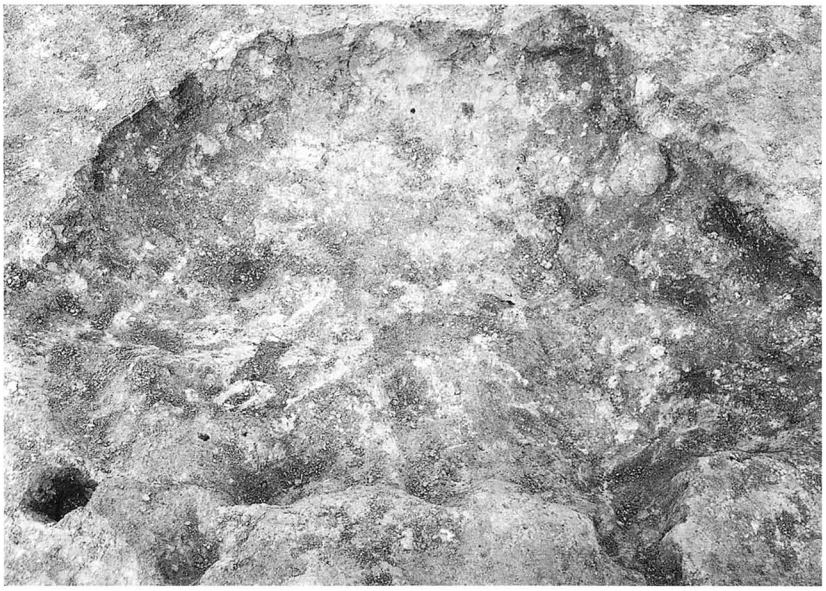


②第4号土坑

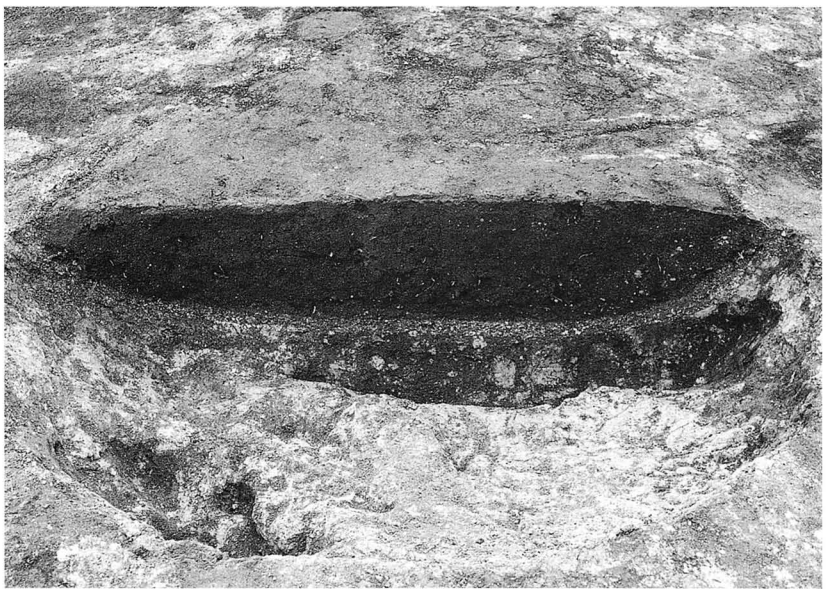


③第8号土坑

図版5



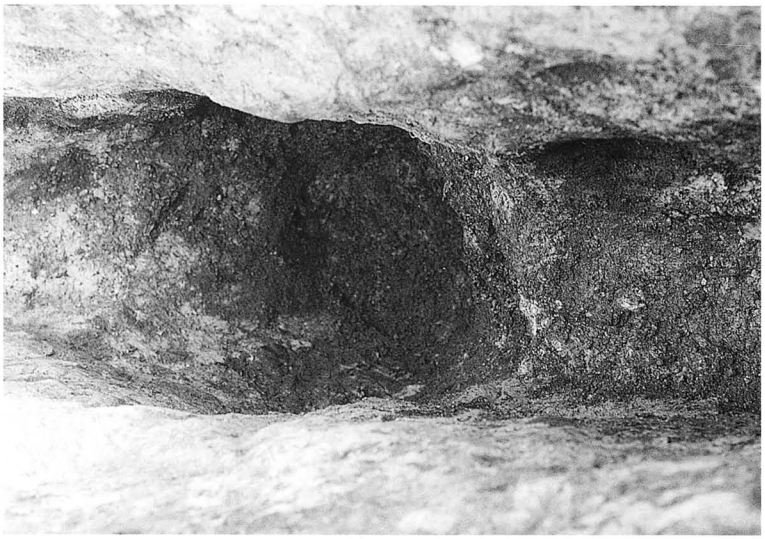
①第10号土坑



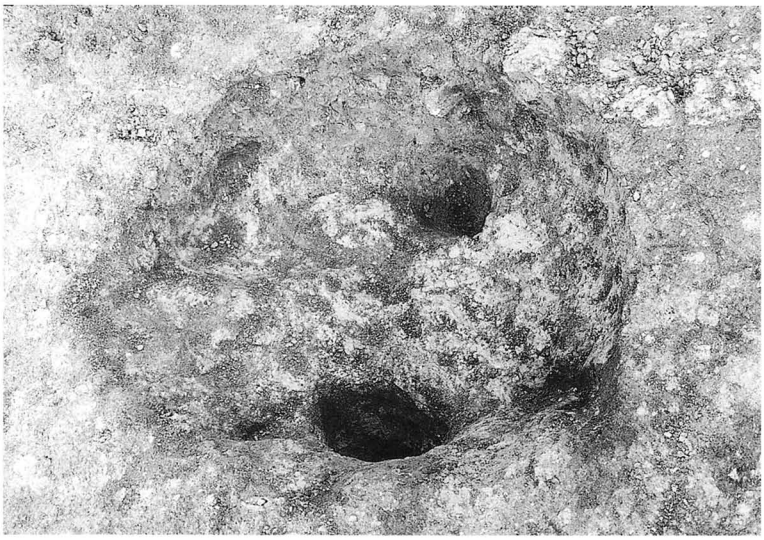
②第11号土坑セクション

③第11号土坑

①第12号土坑



②第12号土坑坑底ピット

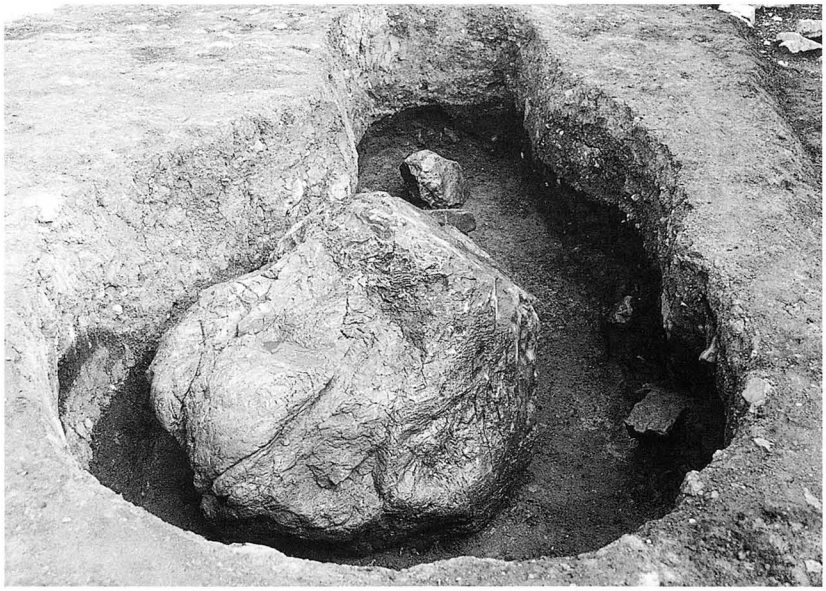


③第９号土坑

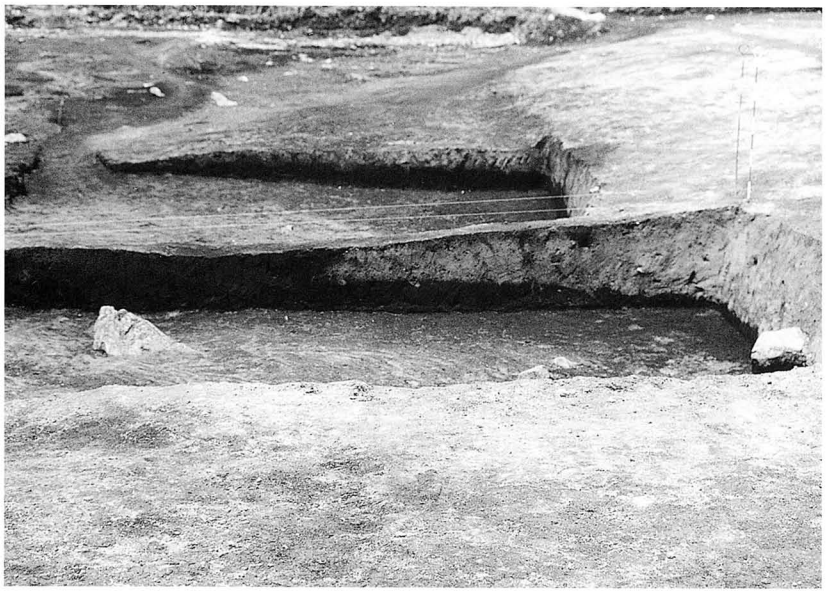
図版7

①第 6 号土坑

②第13号土坑



③第15号土坑

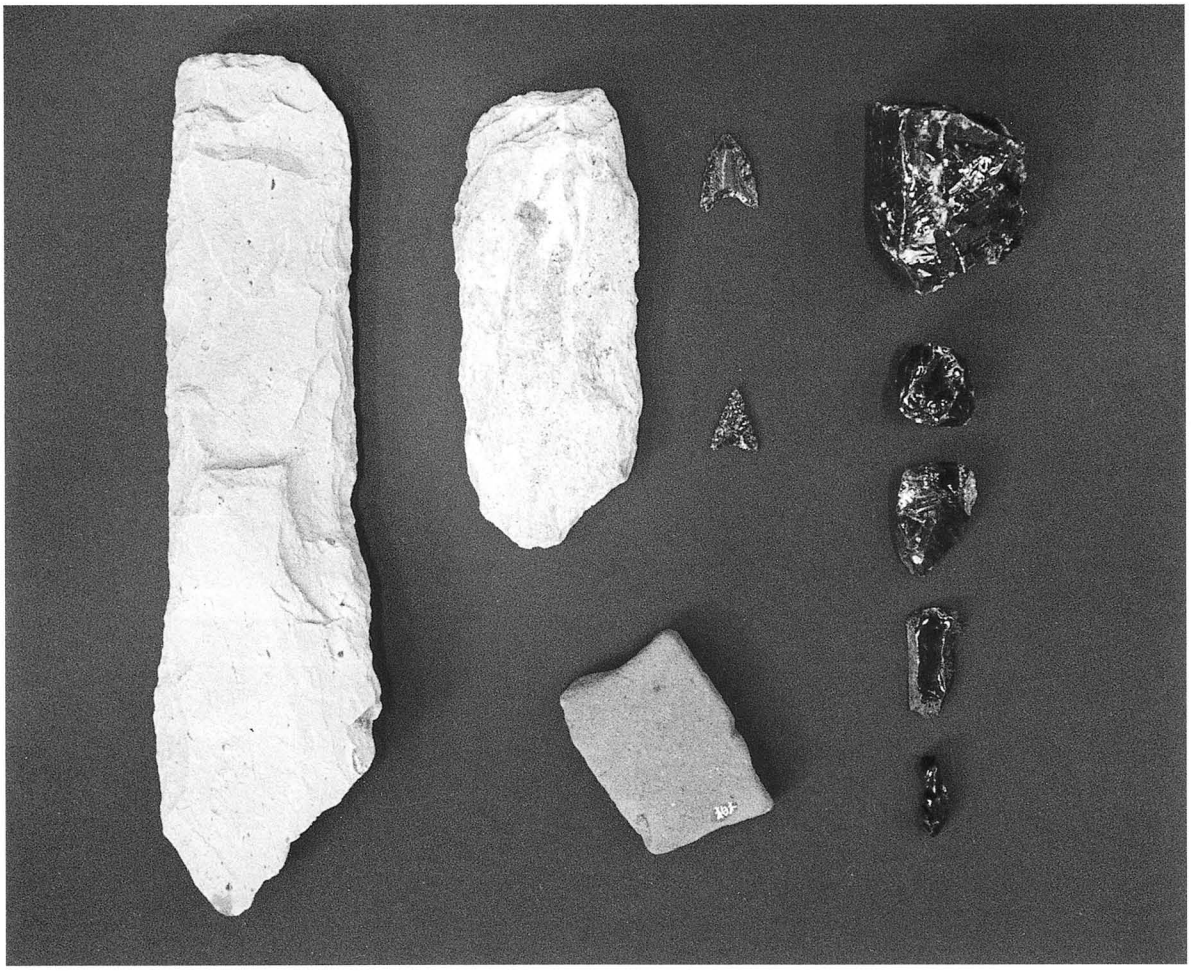


①土石流痕

②崩落土堆積状況

③流路境

図版9



①出土遺物

②発掘調査に参加された皆さん

報告書抄録

ふりがな	かしわぎいせき
書名	柏木遺跡
副書名	「中山間総合整備事業御柱の里地区」に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	百瀬一郎
編集機関	茅野市教育委員会
所在地	〒391－8501　長野県茅野市塚原２丁目６番地１号　　℡0266－72－2101
発行年月日	西暦2003年３月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
柏木（かしわぎ）	茅野市（ちのし） 金沢（かなざわ）	20214	337	35度 56分 19秒	138度 11分 31秒	20020624 ～ 20020924	900m²	中山間総合整備事業御柱の里地区に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柏木	生産跡	縄文	土坑15基。 （落し穴２基）。	縄文時代石器。 中世内耳土器。	縄文時代の生産域である落し穴遺構。 土石流跡。

柏木遺跡

——「中山間地総合整備事業御柱の里地区」
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書——

平成15年3月12日　印刷
平成15年3月18日　発行

編集
発行　茅野市教育委員会
長野県茅野市塚原2丁目6番地1号
Tel (0266) 72−2101

印刷　永明社印刷所
長野県茅野市塚原2丁目12番30号